

〔第176回明専塾(株アドヴィックス)〕 情熱を持ったブレーキ屋集団

工学府工学専攻制御工学コースM1 高崎 裕貴



はじめに

令和元年7月5日に、戸畑キャンパスにおいて第176回明専塾が開講されました。私は制御工学を学んでおり、将来も制御に携わる職に就きたいと考えています。今回の明専塾では、制御部門で活躍されている方の話が聞けると知り、参加を決めました。

講演会

今回の講演会では、小西康夫先輩(電61)、武谷弘隆先輩(M生生日21)、石村淳次先輩(設機H8)、木下祐介先輩(M生生日21)の4名の

先輩方に、自らの体験を踏まえながら、会社概要や仕事内容について講演していただきました。今回の講演で最も印象に残ったことは、先輩方が情熱を持ってブレーキづくりに取り組んでいると伝わってきたことです。お話の中で、仕事で壁にぶつかった際の、なんとか乗り越えようとする姿勢はまさに、「情熱を持ったブレーキ屋集団」であると感じました。

また、人だけでなく技術力の高さもあり、私たちも大きな恩恵を受けているのだと感じました。思い返すと、自動車は私たちの生活に深く浸透しており、安全で快適な運転にはブレーキ技術は欠かすことができません。私自身も、自動車で通学をしており、毎日のようにその技術に触れています。重さ2トンを超える自動車が片足一つで止まることや、ブレーキの鳴きについてなど、今まで意識していなかったことを考えることができました。フェイルセーフや

車両運動統合制御などのブレーキ技術の中で、私が特に興味を持ったのは回生協調ブレーキシステムです。このシステムは、回生ブレーキと油圧ブレーキを協調制御することでエネルギー回収を最大限とし、地球環境に優しい技術です。より良い環境づくりに貢献できる技術は、今後さらに注目されると思います、興味を持ちました。

懇親会

百周年中村記念館で行われた懇親会では、立食形式で飲食しながら社員の方々のお話を聞くことができました。社員の方々から積極的に話しかけてもらい、学生時代の話や今後の就職活動に向けてのアドバイス、製品のことや自動運転化に伴うブレーキシステムの変化など、貴重なお話を聞くことができました。

おわりに

私は今回初めて明専塾に参加し、社会で活躍されている先輩方との交流を通して、貴重な体験ができる場だと思いました。就職活動に役立つことはもちろん、働き方についても学ぶことができました。今後は、興味のある業界や企業の明専塾に積極的に参加しようと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中、講演していただきましたアドヴィックスの皆様、ならびにこのような貴重な機会を提供していただいた明専会の皆様に心よりお礼申し上げます。

